

科目名	がん看護学演習Ⅳ				分野・必選別・単位数	専門科目 (がん看護学)	選択	2単位
担当教員	◎教授 南川雅子					科目ナンバー	T2C135	
課程	博士前期	配当年次	1年または2年	配当学期	通年	授業方法	演習	
授業の概要	緩和ケアにおける研究課題を学生各自が設定し、課題を明確にするための科学的な探求能力を養う。							
授業の到達目標	1. 理論やエビデンスに基づき、緩和ケアにおける患者とその家族への看護介入計画を立案できる。 2. フィールドワークでの実践を分析し、緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割と機能について考察する。							
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	南川 雅子	教授	科目概説 本科目の概要、授業目標を説明できる。				
	2	南川 雅子	教授	緩和ケアにおける看護介入計画の立案① 文献検討、理論とエビデンスをふまえて、対象患者に適切な緩和ケアを立案する。				
	3	南川 雅子	教授	緩和ケアにおける看護介入計画の立案② 文献検討、理論とエビデンスをふまえて、対象患者に適切な緩和ケアを立案する。				
	4	南川 雅子	教授	緩和ケアにおける看護介入計画の立案③ 文献検討、理論とエビデンスをふまえて、対象患者に適切な緩和ケアを立案する。				
	5	南川 雅子	教授	緩和ケアにおける看護介入計画の立案④ 文献検討、理論とエビデンスをふまえて、対象患者に適切な緩和ケアを立案する。				
	6	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)① 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	7	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)② 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	8	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)③ 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	9	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)④ 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	10	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)⑤ 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	11	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)⑥ 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	12	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)⑦ 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	13	南川 雅子	教授	看護介入の実施と評価(フィールドワーク)⑧ 緩和ケアが必要な複数の対象患者に看護介入し、その結果に基づいて事例分析と評価を行う。				
	14	南川 雅子	教授	成果発表 実施した緩和ケアの分析結果と評価、緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割と機能に関する考察について発表・意見交換を行い、理解を深める。				
15	南川 雅子	教授	まとめ 実施した緩和ケアの分析結果と評価、緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割と機能に関する自らの考えをまとめる。					
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	看護介入計画立案の準備、事例分析と評価を主体的に行う。						
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。						
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。						
教科書	随時紹介する。							
参考書	随時紹介する。							
成績評価の方法および基準	看護介入計画50%、看護介入の実施と評価50%により評価する。							
その他履修上の注意事項	フィールドワークを行う。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2およびDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。							